家畜衛生だより

平成25年度第21号（豚）
平成26年1月発行

南部家畜防疫協議会
南部家畜防疫獣医師会
（公社）千葉県畜産協会衛生環境部

千葉県南部家畜保健衛生所
〒296-0033　鴨川市八色52
電話 04(7092)2304
夜間・休日緊急（転送されます）
FAX 04(7092)1434

豚流行性下痢が続発中

H25年11月　茨城県で2例の真症確認
H25年12月～H26年1月　鹿児島県で54例、宮崎県で8例の真症を確認
＊H26．1．8現在

消毒・衛生管理の徹底を！！

豚流行性下痢は、発症豚の糞便の経口感染でうつります。
糞便のついた長靴や車両によって、他の農場へも伝播します。
消毒・衛生管理を徹底し、疾病の農場への侵入を防止しましょう。

☆農場外からの侵入防止対策

タイヤは徹底消毒！

車両消毒は

飼料運搬車も！死亡豚運搬車も！出荷トラックも！

複数の農場に出入りする車両は、消毒してから農場に入れましょう。
出荷トラックの荷台は毎回洗浄消毒しましょう。

☆農場内対策

農場内は、農場専用の靴で！！

長靴は裏をきれいに！

＊繁殖豚舎、分娩舎は豚舎専用の長靴、衣服の着用が良い。

飼育している豚に黄色水様性下痢等の異常がみられた場合、すぐに家畜保健衛生所に連絡してください。　南部家畜保健衛生所　tel　04-7092-2304

管内で豚丹毒が発生しました

1例目　H25年10月。肥育農家で発生（死亡率約25%）。
2例目　H25年12月。一貫経営農家で繁殖豚と肥育豚に発生。
（死亡率は繁殖豚で約18%、肥育豚で約30%）

1・2例とも、発症豚は明らかな症状を示さず、突然死しました。
（豚丹毒の急性敗血症型）

豚丹毒の概要

豚丹毒菌が原因で起こる。全日齢で起こり、特に肥育豚に出やすい。
症状は、下記の4つのパターンがある。

【急性敗血症型】突然発熱し、暗赤色の発疹ができ、皮膚が紫色になって死亡する。症状なく突然死することもある。

【心内膜炎型】 心臓内にイボができる。無症状が多く、と畜場で発見される。

【じんましん型】 発熱し、体表に菱形の発疹が出る。

【関節炎型】 足の関節が腫れて硬くなり、足を引きずって歩く。

【予防対策】

豚丹毒菌は畜舎環境の周囲に常在し、豚に経口感染や創傷感染します。
豚丹毒の予防には**ワクチン接種が有効**です。

投与時期や種類については獣医師もしくは家畜保健衛生所にご相談ください。

	生ワクチン	不活化ワクチン（単味、混合）
回数	1回	2回
投与時期	移行抗体の消失後	薬品の取扱説明書に従う
注意点	・移行抗体が高いと効果が不十分（繁殖豚へのワクチン接種で子豚の移行抗体の消失時期をそろえられる） ・SPF豚や高感受性豚で投与後、体表に発赤や丘疹が出ることがある ・発生農場では効果が不十分	・一回の投与では効果が不十分

【治療】 ペニシリン系抗生物質の高単位投与（3日間）が有効ですが、
必ず、獣医師の診断、指示を受けてから投薬してください。

肥育豚の突然死が急増するなど、豚丹毒が疑われる場合は、すぐに家畜保健衛生所に連絡してください。

南部家畜保健衛生所　電話　04－7092－2304